

## 略歴及び業績一覧

片山 宏行（かたやま ひろゆき）

### 略歴

一九五五（昭和三〇）年五月一日 北海道帯広市に生まれる。

一九七四年 三月 北海道立札幌東高校卒業。

一九七五年 四月 青山学院大学文学部日本文学科入学、七九年三月卒業。

一九七九年 四月 青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻修士課程入学、八一年三月修了。

一九八一年 四月 青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻博士課程入学、八二年三月中退。

一九八二年 四月 神戸山手女子短期大学国文学科専任講師。

一九八九年 四月 同助教授。

一九九一年 四月 青山学院大学文学部日本文学科助教授。

一九九八年 一月 一九九八年度青山学院学術褒賞受賞（『菊池寛の航跡——初期文学精神の展開——』（一九九七年九月、和泉書院）による）。

二〇〇一年 四月 青山学院大学文学部日本文学科教授。

二〇二四年 三月 定年により、青山学院大学を退職。

### 業績目録

#### 【著書・編著・監修】

（単著）『菊池寛の航跡（初期文学精神の展開）』、一九九七年九月、和泉書院

（単著）『菊池寛のうしろ影』、二〇〇〇年十一月、未知谷

〔監修、共著〕『真珠夫人本文篇／注解・考説篇』、菊池寛研究会編、二〇〇三年八月、翰林書房

〔共著〕『芥川龍之介新辞典』、関口安義編、二〇〇三年二月、翰林書房

〔編著〕『田タク・地下鉄』（コレクション・モダン都市文化第七巻）、和田博文監修、二〇〇五年五月、ゆまに書房

〔共著〕『大阪近代文学事典』（和泉事典シリーズ16）、日本近代文学会関西支部大阪近代文学事典編集委員会編、二〇〇五年五月、和泉書院

〔共著〕『異郷の日本語』、青山学院大学文学部日本文学科編、二〇〇九年四月、社会評論社

〔共著〕『倉敷市蔵 薄田泣菫宛書簡集 作家篇』、倉敷市編、二〇一四年三月、八木書店

〔共著〕『近代文学 草稿・原稿研究事典』、日本近代文学館編、二〇一五年二月、八木書店

〔共著〕『倉敷市蔵 薄田泣菫宛書簡集 詩歌人篇』、倉敷市編、二〇一五年三月、八木書店

〔共著〕『倉敷市蔵 薄田泣菫宛書簡集 文化人篇』、倉敷市編、二〇一六年三月、八木書店

〔監修、共編著〕『菊池寛現代通俗小説事典』、山口政幸監修、若松伸哉、掛野剛史編集、二〇一六年七月、八木書店

〔単著〕『菊池寛随想』、二〇一七年八月、未知谷

〔共著〕『薄田泣菫読本』、倉敷市・薄田泣菫文庫調査研究プロジェクトチーム編、二〇一九年三月、翰林書房

## 【論文・書評・解説・その他】

『栗山大膳』論考―その性格と位置―、『青山語文』10、一九八〇年三月、青山学院大学日本文学会

『鴉外・史伝の方法―側面―新聞連載形式の諸特性―』、『紀要』23、一九八二年一月、青山学院大学文学部

『「忠直卿行状記」の成立―「暴君の心理」をふまえて―』、『青山語文』12、一九八二年三月、青山学院大学日本文学会

『鴉外・史伝の位相―新聞連載物としての側面―』、『山手国文論攷』5、一九八三年三月、神戸山手女子短期大学国文学科

『鴉外「相原品」私見―その位置と内実への疑義―』、『山手国文論攷』6、一九八四年一〇月、神戸山手女子短期大学国文学科

『京都時代の菊池寛《資料篇》―「中外日報」への投稿―』、『山手国文論攷』8、一九八七年三月、神戸山手女子短期大学国文学科

学科

『「資料」久米正雄・菊池寛 一高時代の諸作―「校友会雑誌」掲載作品の紹介―』、『神戸山手女子短期大学紀要』30、一九八七

年一二月、神戸山手女子短期大学

『日本近代文学逸史——中外日報をめぐる文士たち——』（全10回）、『中日日報』、一九八八年一二月、中日日報社（掲載日、一月・三、七、一、一、三、二〇、二七日、二月・一、五、八、一五日）

『読みものの文学史22『渋江抽斎』の側面』、『高校通信東書国語』280、一九八八年三月、東京書籍

『菊池寛・ロマンチストの変貌—京都時代の考察を中心に—』、『青山語文』18、一九八八年三月、青山学院大学日本文学会

『菊池寛の初期投稿作品』、『資料』—二六・読売・万朝への投稿—、『山手国文論攷』9、一九八八年三月、神戸山手女子短期大学国文学科

『『資料』続・京都時代の菊池寛—「不二」新聞への投稿—』、『神戸山手女子短期大学紀要』31、一九八八年一二月、神戸山手女子短期大学

『菊池 寛・ロマンチストの時代—初期文学精神の検討—』、『山手国文論攷』10、一九八九年三月、神戸山手女子短期大学国文学科

『菊池寛・シェービヤンの彷徨—バーナード・ショーの受容を中心に—』、『山手国文論攷』11、一九九〇年三月、神戸山手女子短期大学国文学科

『菊池寛の航跡（大正八年）—安定と停滞—』、『神戸山手女子短期大学紀要』33、一九九〇年一二月、神戸山手女子短期大学

『菊池寛「恩讐の彼方に」をめぐる—その成立および性格—』、『岡保生編『近代文藝新攷』（新典社研究叢書38）、一九九一年三月、新典社

『菊池寛の航跡（大正九年）—成功と動揺—』、『山手国文論攷』12、一九九一年三月、神戸山手女子短期大学国文学科

『菊池寛の航跡（大正十年）—焦燥と決意—』、『青山語文』23、一九九三年三月、青山学院大学日本文学会

『菊池寛の早わざ—「暴徒の子」をめぐる—』、『いずみ通信』17、一九九三年七月、和泉書院

『菊池寛の航跡—大正十一年の岐路—』、『紀要』35、一九九四年一月、青山学院大学文学部

『菊池寛ノート—代作問題について—』、『青山語文』24、一九九四年三月、青山学院大学日本文学会

『菊池寛・イギリス、アイルランド文学の投影』、『研究叢書』4、一九九四年三月、青山学院大学総合研究所人文学系研究センター

『作品のうしろ影 一』、『菊池寛全集通信』3（『全集』6巻（月報））、一九九四年四月、菊池寛記念館

- 「作品のうしろ影 二」、『菊池寛全集通信』4〔全集〕7卷（月報）、一九九四年五月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 三」、『菊池寛全集通信』5〔全集〕9卷（月報）、一九九四年七月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 四」、『菊池寛全集通信』6〔全集〕10卷（月報）、一九九四年八月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 五」、『菊池寛全集通信』8〔全集〕12卷（月報）、一九九四年一〇月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 六」、『菊池寛全集通信』9〔全集〕13卷（月報）、一九九四年十一月、菊池寛記念館
- 「研究動向 菊池寛」、『昭和文学研究』30、一九九五年二月、昭和文学会
- 「作品のうしろ影 七」、『菊池寛全集通信』14〔全集〕18卷（月報）、一九九五年四月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 八」、『菊池寛全集通信』16〔全集〕19卷（月報）、一九九五年六月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 九」、『菊池寛全集通信』17〔全集〕21卷（月報）、一九九五年七月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 十」、『菊池寛全集通信』18〔全集〕24卷（月報）、一九九五年八月、菊池寛記念館
- 「作品のうしろ影 十一」、『菊池寛全集通信』20〔全集〕23卷（月報）、一九九五年十二月、菊池寛記念館
- 「菊池寛・文藝家協会設立までの経緯」、『紀要』37、一九九六年一月、青山学院大学文学部
- 「菊池寛・マント事件の位相―長崎太郎宛書簡を基点として―」、『青山語文』26、一九九六年三月、青山学院大学日本文学会
- 「菊池寛とトマス・ハーディー―姉の覚書」と「アリシアの日記」をめぐって―、『研究叢書』7、一九九六年三月、青山学院大学総合研究所人文学系研究センター
- 「菊池寛・マント事件の経緯―『長崎太郎日記』をふまえて―」、『緑岡詞林』21、一九九七年三月、青山学院大学日本文生の会
- 「菊池寛と太宰治―芥川賞事件をめぐって―」、山内祥史編『太宰治研究』4、一九九七年七月、和泉書院
- 「菊池寛「火華」―「ジュエルミナル」の受容を視点としつつ―」、『研究叢書』10、一九九八年三月、青山学院大学総合研究所人文学系研究センター
- 「注解」、『藤十郎の恋・恩讐の彼方に』（新潮文庫）、一九九九年五月、新潮社
- 「菊池寛の人と作品」、『The CD Club』、一九九九年一〇月、ソニー・ミュージックハウス
- 「『菊池寛全集』問題に関する疑義」、『讃岐文学』52、一九九九年一二月、讃岐文学社
- 「菊池寛「藤十郎の恋」生成考」、『研究叢書』14、二〇〇〇年三月、青山学院大学総合研究所人文学系研究センター

- 「菊池寛・文学精神史概説―作家凡庸主義まで―」、「青山語文」31、二〇〇一年三月、青山学院大学日本文学会
- 「形影 菊池寛と佐佐木茂索」論——人間の興味の小説——、「松本清張研究」2、二〇〇一年三月、北九州市松本清張記念館
- 「菊池寛・三題」、「文藝もず」2、二〇〇一年六月、高松市菊池寛記念館
- 「菊池寛は「人間」が好き——長男英樹氏と片山宏行氏が語る——」、「文藝もず」3、二〇〇二年六月、高松市菊池寛記念館
- （新刊紹介）「栗坪良樹編『現代文学鑑賞辞典』」、「青山学報」201、二〇〇二年一〇月、青山学院本部広報室
- 「身投げ救助業——小説への転身——」、「文藝もず」4、二〇〇三年六月、高松市菊池寛記念館
- 「真珠夫人」——その生成をめぐる風景——、「文藝もず」4、二〇〇三年六月、高松市菊池寛記念館
- （書評）「日高昭二著『菊池寛を読む』」、「神奈川大学評論」45、二〇〇三年七月、神奈川大学広報委員会
- （書評）「日高昭二著『菊池寛を読む』」、「日本近代文学」69、二〇〇三年一〇月、日本近代文学会
- 「菊池 寛―後手の布石―、関口安義編『芥川龍之介 その知的空間』（国文学解釈と鑑賞 別冊）、二〇〇四年一月、至文堂
- （書評）「菊池寛著／菊池寛顕彰会『剣聖武蔵伝』」、「週刊読書人」二五一九号、二〇〇四年一月九日、読書人（※『週刊読書人』上では「検証会」となっていたため、修正した）
- 「真珠夫人」考―発生する読者―、「緑岡詞林」28、二〇〇四年三月、青山学院大学日文学院生の会
- 「入れ札」の舞台裏、「文藝もず」5、二〇〇四年六月、高松市菊池寛記念館
- 「菊池寛・第四次『新思潮』のゲラ」、「文藝もず」5、二〇〇四年六月、高松市菊池寛記念館
- （書評）「菊池寛を恋愛で解く——猪瀬直樹著『こころの王国』を読む」、「文学界」58・7、二〇〇四年七月、文藝春秋
- 「秋聲と菊池寛の気脈」、「徳田秋聲全集 月報」41（全集）37巻、二〇〇四年七月、八木書店
- 「義民甚兵衛」をめぐる、「文藝もず」6、二〇〇五年六月、高松市菊池寛記念館
- 「菊池寛の名前」、「文藝もず」6、二〇〇五年六月、高松市菊池寛記念館
- 「菊池寛記念館の息吹——文学館をめぐる（人の力学）——」、「日本近代文学館」210、二〇〇六年三月、日本近代文学館
- 「俊寛」をめぐる覚書―解説にかえて―、「文藝もず」7、二〇〇六年六月、高松市菊池寛記念館
- 「真珠夫人」点綴、「文藝もず」7、二〇〇六年六月、高松市菊池寛記念館
- 「久米正雄「蜚草」補注」、「山手日文論叢」26、二〇〇七年三月、神戸山手短期大学日本語・日本文化学科

「形」解説にかえて、『文藝もず』8、二〇〇七年六月、高松市菊池寛記念館

「貞操問答」小考、『文藝もず』8、二〇〇七年六月、高松市菊池寛記念館

芥川龍之介・新資料紹介——「邪宗門〈別稿〉」および書簡一通、『國文學〈解釈と教材の研究〉』53・3、二〇〇八年二月、學燈社

「青年作家・芥川龍之介の苦悩——新発見・「邪宗門」別稿をめぐる」、『文學界』62・3、二〇〇八年三月、文藝春秋

「影印・芥川龍之介「邪宗門」原稿、『緑岡詞林』32、二〇〇八年三月、青山学院大学日文院生の会

「三浦右衛門の最後」解説にかえて、『文藝もず』9、二〇〇八年七月、高松市菊池寛記念館

「映画になった菊池寛——丘を越えて」をめぐる、『文藝もず』9、二〇〇八年七月、高松市菊池寛記念館

「新資料紹介（1）「流行の将来」、菊池寛資料集成（改訂版）、二〇〇九年三月、菊池寛顕彰会

「新資料紹介（2）「坂田行雄」宛書簡」（石川元と共同）、菊池寛資料集成（改訂版）、二〇〇九年三月、菊池寛顕彰会

「父帰る」解説にかえて、『文藝もず』10、二〇〇九年八月、高松市菊池寛記念館

「菊池寛の手紙——佐藤観次郎宛書簡をめぐる」、『文藝もず』10、二〇〇九年八月、高松市菊池寛記念館

「浪曲『父帰る』」、『菊池寛顕彰会会報 菊池寛』5、二〇〇九年十二月、菊池寛顕彰会

「極楽」解説にかえて、『文藝もず』11、二〇一〇年七月、高松市菊池寛記念館

「藤十郎の恋」解説にかえて、『文藝もず』12、二〇一一年六月、高松市菊池寛記念館

「円本余聞（上）」、『文藝もず』12、二〇一一年六月、高松市菊池寛記念館

「解説」（完全復刻 震災文章）、『文藝春秋』90・5 三月臨時増刊号、二〇一二年三月、文藝春秋

「恩を返す話」解説にかえて、『文藝もず』13、二〇一二年六月、高松市菊池寛記念館

「円本余聞（中）」、『文藝もず』13、二〇一二年六月、高松市菊池寛記念館

「忠直卿行状記」解説にかえて、『文藝もず』14、二〇一三年六月、高松市菊池寛記念館

「円本余聞（下）」、『文藝もず』14、二〇一三年六月、高松市菊池寛記念館

「菊池寛「恩讐の彼方に」その感動の源泉」、『博多座十五周年記念 六月博多座大歌舞伎』、二〇一四年六月、博多座

- 「無名作家の日記」解説にかえて、『文藝もず』15、二〇一四年六月、高松市菊池寛記念館
- 「芥川龍之介の死」、『文藝もず』15、二〇一四年六月、高松市菊池寛記念館
- 「蘭学事始」解説にかえて、『文藝もず』16、二〇一五年六月、高松市菊池寛記念館
- 「芥川龍之介の死（承前）」、『文藝もず』16、二〇一五年六月、高松市菊池寛記念館
- 「葬式に行かぬ訳」解説にかえて、『文藝もず』17、二〇一六年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「菊池寛と上田敏」、『文藝もず』17、二〇一六年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「恩讐の彼方に」解説にかえて、『文藝もず』18、二〇一七年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「モーニング・ポスト」紙の菊池寛評、『文藝もず』18、二〇一七年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「鷗外史伝の姿」、『日本古書通信』82・11、二〇一七年一月、日本古書通信社
- 「妖妻記」解説にかえて、『文藝もず』19、二〇一八年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「閻魔堂」解説にかえて、『文藝もず』20、二〇一九年八月、高松市 菊池寛記念館
- 「我がフェータリズム」検証、『文藝もず』20、二〇一九年八月、高松市 菊池寛記念館
- （解説「美しい双曲線」、松本侑子著『みずぐと雅輔』（新潮文庫）、二〇二〇年五月、新潮社
- 「第一人者」解説にかえて、『文藝もず』21、二〇二〇年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「近親憎悪——菊池寛と仲兄」、『文藝もず』21、二〇二〇年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「仇討禁止令」解説にかえて、『文藝もず』22、二〇二二年八月、高松市 菊池寛記念館
- 「菊池寛と普選——昭和三年の〈索引〉として——」、『文藝もず』22、二〇二二年八月、高松市 菊池寛記念館
- 「六宮姫君」解説にかえて、『文藝もず』23、二〇二二年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「菊池寛と普選——昭和三年の〈索引〉として——（承前）」、『文藝もず』23、二〇二二年六月、高松市 菊池寛記念館
- 「講演1 菊池寛と薄田泣菫」、公益財団法人 山陽放送学術文化・スポーツ振興財団編『輝ける讃岐人2』、二〇二三年四月、公益財団法人 山陽放送学術文化・スポーツ振興財団
- 「質問に答えて」（吉祥瑞枝と共同、司会・中屋藍）公益財団法人 山陽放送学術文化・スポーツ振興財団編『輝ける讃岐人2』、二〇二三年四月、公益財団法人 山陽放送学術文化・スポーツ振興財団

「ある恋の話」解説にかえて、「文藝もず」24、二〇二三年六月、高松市 菊池寛記念館  
「菊池寛と普選―昭和三年の〈索引〉として―(完)」、「文藝もず」24、二〇二三年六月、高松市 菊池寛記念館

#### 【講演・口頭発表】

「鷗外「相原品」私見」、一九八四年六月九日、日本近代文学会関西支部

「菊池寛とイギリス、アイルランド文学」、一九九四年一月二日、比較文学会東京支部

「松本清張の中の菊池寛」、二〇〇三年一月二四日、菊池寛記念館

「鷗外〈史伝物〉と芥川・菊池―『毎日新聞』を視座として―」、十一月例会「メディアの生態学」、二〇〇五年十一月二六日、

日本近代文学会、駒澤大学

「菊池寛と朝鮮」、国際シンポジウム「もうひとつの日本語」二〇〇八年九月二七日、青山学院大学日本文学科主催、青山学院大学

「作家の生き方」(井上ひさし氏との対談)、「読書教養講座(公開授業)」二〇〇八年一〇月二五日、活字文化推進会議、青山学

院大学。この後、「読書教養講座 青山学院大学 公開授業」として、『読売新聞』二〇〇八年一月二三日朝刊に掲載。

「名作が浪曲化するとき ― 菊池寛「父帰る」と「恩讐の彼方に」 ―」、国際シンポジウム「エコクリティシズムと日本文

学研究 ― 自然環境と都市」、二〇一〇年一月一〇日、立教大学大学院文学研究科日本文学専攻主催、青山学院大学文学部

日本文学科・コロンビア大学東アジア言語・文化学部共催、立教大学

「菊池寛と松本清張の接点」、第25回研究発表会、二〇一一年二月三日、松本清張研究会、慶應義塾大学

「菊池寛と夏目漱石」、「開館20周年記念特別展 菊池寛遺品展寛帰る」新たな遺品が故郷へ、特別講演会、二〇一三年二月

二四日、菊池寛記念館、サンクリスタル高松

「(レクチャー) 菊池寛と近代演劇」、第十一回 日本の近代戯曲研修セミナー、東京「菊池寛を読む!」、二〇一四年八月一六日、

一般社団法人日本演出者協会、芸能花伝舎。同年九月一四日に行われたシンポジウムにも、パネラーとして参加。

「文学座談会「薄田泣菫と文豪たち」(庄司達也、荒井真理亜、掛野剛史、西山康一、加藤美奈子と共同)」、「倉敷市蔵 薄田泣菫

宛書簡集 作家篇」出版記念、二〇一四年八月一日、倉敷市、倉敷市役所

「倉敷市蔵『薄田泣菫宛書簡集(詩歌人篇)』基調報告」土井晩翠・土岐善磨を中心に、倉敷市蔵『薄田泣菫宛書簡集(詩歌人篇)』

基調報告会、二〇一五年三月二七日、倉敷市

「菊池寛の人と文業」、菊池寛記念館 第27回文学展「菊池寛をふりかえる」、二〇一八年二月一六日、高松市・菊池寛顕彰会、サンクリスタル高松

「戦時下の菊池寛」、国際シンポジウム「文学による日米の架け橋——ケネス・レクスロス、翻訳、戦争」、二〇一九年三月八日、青山学院大学文学部日本文学科主催・英米文学科協力、青山学院大学

「菊池寛と薄田泣菫」、リレー・シンポ「輝ける讃岐人⑥ 文学賞と科学賞を残した2人」、二〇二三年九月一八日、公益財団法人山陽放送学術文化・スポーツ振興財団、岡山市能楽堂ホール [tenjin9]

「菊池寛と『文藝春秋』」、第36回川端康成文学館文学講座（後期）「『文藝春秋』と川端康成」、二〇二三年三月二日、茨木市、川端康成文学館併設青少年センター